
【脚本風】ミッドナイトブルーに包まれて

があわいこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【脚本風】ミッドナイトブルーに包まれて

【著者名】

があわいこ

【ノード】

N5605H

【あらすじ】

「科学忍者隊ガッチャマン」の脚本風ファンフィクション。ジョーが怪しい女性のあとを追つて単独行動に出る。ギャラクターの鉄獣メカ「ダイネック」に襲われるガッチャマンたち。夢のリゾートアイランドに潜む謎とは？

(前書き)

2009年04月30日 I Love George Asakura
(*^-^*)に初掲載

科学忍者隊ガッチャマンのファンフィクションです。
脚本風になっています。
読みづらいかも知れませんが、ご一読くださいです。

（プールサイドで日焼けするカップル、遊園地ではしゃぐ子供たち、ディナーを楽しむ老夫婦など、南の島のリゾート地でくつろぐ人々の静止画がスライド写真のように映し出される。）

（三日月基地内の一室。南部博士は忍者隊にヘルシー島のスライド写真を見せながら豪華な施設を説明している。）

南部博士：諸君。ここが無公害エネルギーを使用し、自然を活かして作られたヘルシー島のデザニー・パークだ。

ジンペイ：へへ、うわさには聞いてたけどよ。すっげーなあ。。。

リュウ・オラ、知つとるかい。アタレヤ国の人もなき離れ小島だったヘルシー島に、いまをときめくデザニー社が巨額の資金を投じて造った夢のリゾートアイランドで、その環境に配慮された設備の数々は国際科学技術庁も注目しちょるんじゃったかいのう？

南部博士：うむ。その通りだ、リュウ。

ジンペイ：へ。リュウがこんなモダンな島のことによく知つてたモダン・・じゃない、知つてたもんだ。。。

リュウ・オラ、新婚旅行はココで決めちよ。

ジンペイ：お～お～。よく聞つよ。アテはあるのかい？おマメさんのお。

リュウ・まだ時間があるからね。よく考えてゆっくり探すんだわ。

ジンペイ・な、んだ。そんな事だなと思つたよ。そういうのをね、「取らぬ狸の皮算用」つていうんだぜ。

リュウ・なんだとー！オラのカミセんになる子はタヌキなんかじゃないわい！

ケン・まあまあ、ふたりともそのくらいにして博士の話の続きを聞こうじゃないか。で、博士。こんな立派な施設に何か起きたというわけですね？

南部博士・そうだ。この飲料水は、この島の中央に広がっているジャングル地帯に降つた雨水をろ過したものが使われている・いや、使う予定だったのだ。その画期的な技術に国際科学技術庁が注目していたのだが・・・。

ジョー・毒でも入つていたんですか？

南部博士・うむ。毒とまではいかないが、不純物が混入していくどうしても取り除けないというのだ。

ジンペイ・なんだあ。毒じゃないんだつたら、ひょっとくらビツつてことないや。ねえ、お姉ちゃん。

ジユン・あら、私はイヤだわ。直接身体に入るものに不純物が混ざつているなんて。それも毎日飲む水でしょう~

ジンペイ・へえ~つ？！そんなもんかねえ？

南部博士・ジユンの言つとりだ、ジンペイ。人間の体の約65%、つまり半分以上が水でできているのだ。そしてその水は主に飲料水から摂取している。

そして特にジンペイ、君のような子供は約70%，このくらいまでは水でできているのだ。

(博士、ジンペイの首のあたりに手をやる。)

ジュン…どう? ジンペイ。アンタのここまで不純物が混ざつてるとしたら?

ジンペイ…(あわてて)えへっ…ヤだよ。オイラ…。やつぱり…あ〜、びっくりしたなあ、もう…

(みんなクスクス笑う)

南部博士・そこでだ、諸君。この水の汚染源をまず探つてほしいのだ。

ケン・わかりました、博士。さあ今度はこのクスで向かいます。命令を出してください。

南部博士・いや、今回まではノーフォーククスは使わずにいくのだ。

ジョー・ええつ?!

リュウ・ジンペイ・アララ。(ズッコケる)

南部博士・今回は国連軍のヘリでヘルシー島の上空まで行き、ジャングル地帯へ直接降下するのだ。
デゼニー社からの招待は2日後だ。その前に一度こいつを下見をしておきたいだろ？

ジョー・…こつは面白くなつてきた。いいーゼー！

ココカ…と、こつじとはわいも…？

南部博士・ああ。頑張つてくれたまえ。

ココカ…ひくく。

ジンペイ…あ～、でも博士。帰つはせりやつて？？

南部博士…うむ。他の観光客に混ざつて普通にフヨリーに乗つて帰つてくればよ。

ジンペイ…なるほど…。

ジンペイ…ジンペイ、いくわよ。

ジンペイ…ほ、ほい。ほい。

(軍用ヘリの中。ヘルシー島上空。)

ケン・よし。いくぞ！科学忍法、スパイラル・ショーター…！

ジョー・…よつ。

ジュン…はつ。

ジンペイ…やつ。

リュウ…それ…つ…！

(5人はクルクルと輪を描きながらジャングルへと降下していった。)

(ヘルシー島に降り立つ諸君。)

(目の前には美しい湖が広がっている。)

ジュン…わあ。きれいね~。

リュウ…これが水源地かの~?

ケン…しつ…誰か来る!

(全員それぞれ木の影にかくれる。)

(枯れ木や木の根っこを積んだ大型トラックが湖岸にやつてくる。
(トラックから降りてきたのはデゼニーの社長と部下が1人。)

ジンペイ…あれ?あれはデゼニーの社長なんだ。

ジュン…しつ!

ジョー・ビーヴィー・ケン。

ケン・しばりく様子を見よつ。

社長・（あたりをつかがつ）よし。わいつかと並むんだ。

部下がスイッチを入れるとトラックの荷台が傾いて枯れ木などがすべて湖に沈んでしまう。

社長・これでよし。や、帰る。

（トライックが去つてしまふ。）

（顔を見合わせる諸君。）

ケン・あれだ。不純物の原因是。

ジョー・だとすると社長さんは知つていたことになるが。

ジンペイ・アーニー、ビーヴィー・？

ケン・うん・。あの社長さんから、わざわざ調査のじ招待をいただいているんだ。

きっと、裏に何かある。

ジョー・へつ、ちよいとあの社長をしめあげりや・。

ケン・いや、今日はひまでもない。もつすべフロリーが出る時間だ。行こうぜ。

(大空を飛ぶゴッドフュニックス。)

ナレーション：改めてテゼーー株式会社からの依頼を受けた科学忍者隊はゴッドフュニックスでヘルシー島へと向かつた。

(ゴッドフュニックスの中)

ケン：いいか、みんな。ジャングルの中で見たことは、しばらく黙つているんだぞ。

ジンペイ：分かつてるとて、アニキ。でもよー、なんで原因が分かっているのに調査を依頼してきたんだろうつかねえ？

ジョー：それを探るのも、今回のオレたちの任務って言つわけさ。

ジンペイ：ちえ。ギャラクターが相手じゃないと、なんか、じつ、力が出ないというか、いまいち燃えないといつかさ。。。

(と、シャドーボクシングをする。ヘルメットがまぶかになる。)

ジョー：へへっ。ジンペイ、ギャラクターが出てきたらたのむぜ。

ジンペイ：出るかな？ジョーのアニキ。

ジョー：出ぬな。

ジンペイ：へー、ずいぶんと自信があるんだね。

リュウ・ケン、ヘルシー島が見えてきたぞい。

ケン：よし。管制塔の指示通りに着陸させるんだ。

リュウ：わかつた。

ジョー：おい、ケン。まともに行つて大丈夫か？

ケン：ああ。今回は表向きにじろ調査依頼をわざわざしてきただ。来た早々いきなり爆破なんていうことはないだろ？

(空港に着陸する「ツッドフニークス）

(一方、総裁Xの部屋にはベルク・カツチエが控えていた)

総裁X：カツチエよ、ギャラクターの秘密を知ったデゼニーの社長をうまく始末できるのか？

カツチエ：はい。都合よく社長を恨んでいる女がありますので、そやつを利用して暗殺させようかと・・・。

総裁X：女？女は力が弱いぞ。大丈夫なのか？

カツチエ：はい。あの社長は島民にはジャングルの木を一本たりとも切らないで遊園地を作ると約束したにもかかわらず、たくさん木を伐採して湖に捨てておりまして・・・。

総裁X：ヘルシー島の地下に眠るウラン鉱脈を発見し、湖底から採掘を始めようとしていたギャラクターと鉢合わせになつたというわけだな。

カツツヒ・そこで、社長には科学忍者隊をおびき寄せれば秘密を守つてやるといつてあります。

社長があのニックキ科学忍者隊を湖底基地の迷路に誘いこんだところで・・。

総裁X・もし失敗したら?

カツツヒ・そのときは鉄獣ダイナミクスを出動させねばもう万全でござります。総裁。

総裁X・そうか。あのウラン鉱脈は地球征服にはなくてはならないものだ。

社長と科学忍者隊を抹殺してすべてを奪うのだ。よいな?

カツツヒ・ははっ。

(空港のロビーでは社長が諸君を出迎えている)

社長・ようこそ来てくださいました。デゼニー株式会社の社長、デゼニーです。

ケン・今日は「招待ありがとう」ございます。国際科学技術庁の南部博士からもよみじくとのことです。

ジンペイ・(内緒話で)お姉ちゃん、リュウは?

ジュン・ケンに言われてゴッドフォーラックスを別の場所へ移動させに行つたわ。

社長：これでみなさん、お揃いですか？

ジョー：いえ、もう一人。のひこのがいるんですよ。いや、すぐ来ますがね。ははは。

リュウ：いや～。すまんすまん。待たせちまつたのう。

ジンペイ：遅いよ、リュウ。

リュウ：思ったより道が混んでいてのう。ははは…ん、んつ？

デモ隊の声：デザニーは汚いぞ～！…真実を公表しろ～。

リュウ：ん、んつ？何の騒ぎじや。一体？

（ロビーにて）デモ隊が押しかけている。警備員が押し戻そうとしている。（

（デモ隊の先頭に美しい女性がひとり黒いリボンがかかった写真を掲げている。その写真がクローズアップされると素顔のジョーにつくづくである。）

デモ隊の声：ジョナサンをかえせー。社長を辞めろー。むやんと謝罪しやー。

ケン：あれは何の騒ぎですか？

社長：いやいや、たいしたことではありません。ここを建設していくときに作業員が一人、事故で亡くなりましてね。その遺族がいま

だに私のことを敵にして、とやかくああして抗議に来るんですよ。

まったく迷惑なことです。（汗を拭く）

ジヨー…あの写真を持った女性は？

社長：亡くなつた作業員の婚約者だった人らしいのですが、私はよく知りません。（汗を拭く）

ジンペイ…いやー、それにしてもあの写真の顔は……。

ジュン・ジンペイー何を言こ出すの？…

ジンペイ…いけねえ。オイラもうひょつとで……あれ？！
ねー、おねえちゃん。ジヨーのアーキは…。

ジュン・今までここにいたわよ。あら、やーねえ。ビルへ行ひや
たのかしり？

（「そつと」テモ隊の後を追うジヨー。）

（街はずれの広場で「テモ隊は解散」「じへりひつせき」「またがん
ばらう」「ありがと」などと挨拶を交わす。）

（写真を持った女性はひとりで路地の奥にある小さな家へ帰つてい
つた。）

（その様子を陰にかくれて見ていたジヨー。一瞬姿を消すと素顔になつて現れる。）

(女性の家のドアをノックするジョー)

(ドアを開けた女性はハッと驚くが、突然ジョーに抱きつぐ。)

女性：ジョナサン！帰ってきてくれたのね！やつぱり死んでなんか
いなかつたんだわ！

ジョー：あ。い、いや。オレは。。。

女性：えっ？（ジョーをじっと見つめる女性）

・・・違うわ・・。よく似ているけど、あなたはジョナサンではな
いわ。

ジョー：そんなんに似ていたかい？

女性：ええ。でも、ジョナサンは口元にホクロが・・。（と、ジョーの口元に手をやる。）

ジョー：（少し照れながら、その手を握り返すと握手をする）俺は
ジョー。さつき空港で君たちのことを見かけてあとをつけたの
さ。君、名前は？

女性：私、ミシェルよ。

ジョー：（こりで、ミシェル。）の島のジャングル地帯のことで聞
きたいことがあるんだが？

ミシェル：なんですか？！

ジョー：あのティザリーの社長さんのことで知っていることがあるだろ

う？！

ミシェル・あ、あなた・・・まさか・・・。

（次の瞬間、ジョーがエアガンを出すとミシェルがナイフを出すのが同時だった。）

ミシェル・ジョー、やつぱり。ギャラクター。

ジョー・なに？！そいつおめえ！ヤギヤラクターだ？！

ミシェル・ギャラクターを知っているのが何よりの証拠さ。

ジョー・なら、おめえは何で知ってるんだ？ええ？！

ミシェル・ふ・・ん、（ナイフを下ろす）やるがいいや、ジョー。
まあ、私を撃つて。ジョナサンのところへいけるから・・・。

ジョー・う・・。わかつたよ、ミシェル。（エアガンをしまいながら）だが、オレはギャラクターじゃないぜ。ギャラクターに殺されたんだ。オレの両親は・・・。

ミシェル・「両親が・・殺されたの？」

ジョー・ああ。だからオレはいつかやツらに復讐してやるんだ。

ミシェル・ジョー・・・。じっちは来て。（思いつめたような顔でジョーの手を握り部屋の奥にあるカーテンの中へとジョーを引っ張つて入つて行く）

ジョー・ミシール・？そんな・・オ、オレは・・。

(カーテンの中は小さな部屋になっていた。そこには暗青色の布がかけられた祭壇があり、中央にはジョナサンの遺影がかけられていた。)

ジョー・へえ。ソコには黒い布を使つものだと思つていたぜ。

ミシール・ええ。彼がこの色が好きだったものだから。ミッドナイトブルーってこうのよ。

ジョー・それでミッドナイトブルーに包まれてゐてわけか。

ミシール・ええ。(祭壇の布の下からカセットテープレコーダーを取り出す。そこにまた、ギャラクターのマークがはっきりとついていた。)

ジョー・これは・・？(目が鋭くきらつと光る)

ミシール・一週間ほど前に届いたの。ギャラクターから。ジョナサンの仇かたきをとつてやるから、ギャラクターに入らないかつて。

ジョー・なんだって！？

ミシール・これから返事をしごヤングルの湖まで行くのよ。

ジョー・ミシール、おめえ・・まさか・・？

ミシール・ジョー、あなたには悪いけど私、ギャラクターに入つてジョナサンの仇を討ちたいのよ。

ジョー・じゃあ、なぜこの話をオレに？

ミシール・あ・・・？あなたがジョナサンに似ていたからかしら。

ジョー・わかつたよ、ミシール。邪魔したな。

ミシール・帰るの？止めないのね。

ジョー・ああ。好きにしたりいや。 （出でいく）

ミシール・ジニア・・・・。

（カセットを持って家を出るミシール。いつぞりとバーデスタイルのジニアがあとをつける。）

（場面変わって、郊外の田舎道を進む一台のマイクロバス。派手な塗装が施されている。）

ナレーション・一方、ガッチャマンたちは社長自らが運転する観光用のマイクロバスに乗り込み、水源地へと向かっていた。

社長・この先が島の中央ジャングル地帯になっていまして、水源地の湖があります。

（前の席で眼を閉じたまま何かを考えているケン。リュウは一番後ろの席で大イビキをかいている。ジュンとジンペイは遊園地のパンフレットを見ている。）

ジュン・湖やジャングルのことはパンフレットに書いていないんで

すね。

社長：は、はい。遊園地とは直接関係ないものですから・・・。

ジンペイ・へ、そんなもんですかねえ。

社長：（汗を拭く）

（社長、車を止めて外に出る。）

社長：ここが湖の入り口です。ここからは歩いていきます。

（湖畔の見張り小屋まで来ると社長は門柱のボタンを押す。ボタンが光つて門が開く。——ギャラクター基地のボタンが光る。それを見たカツツエがうれしそうにモニターのスイッチを入れる。社長と忍者隊がモニターに映る。）

カツツエ：来た来た。ガッチャマンめ、何も知らずに社長のあとにくつづいて来よった。ファハハハッ！今日こそ地獄へ送つてやるからな。

ギャラ兵：カツツエさま。ミシェルと名のる女がカツツエさまに会わせると来ておりますが・・・。

カツツエ：なに？ミシェル・・・おお～、そつかそつか。どうどうギヤラクターに入る決心をしたんだな。よ～し、ここへ通せ。

ギャラ兵：はつ！

（一方、ガッチャマンたちは、見張り小屋の中へと案内されていた。）

)

社長：ここに問題の浄化装置があるのですが…。
ス、スイッチを入れてみますか？

ケン：はい。お願ひします。

(社長がスイッチのレバーをガタン！と下げる。床が落とし穴になつて地下室へ社長もろとも落ちてしまつ。)

ジンペイ・リュウ・ウワ～～！

ケン：社長さん、これは一体どうこうことですか？

カツツユの声：ファハハハハツ！ガツチャマン、まんまとワナにかかりおつたな。デゼニーの社長さん、いくつだつたな。おかげで、ニックキ科学忍者隊をやつづけることができたつだ。

社長：カツツユさま、科学忍者隊をつれてくれれば湖の底に沈めた木の根っこを片付けて貰うとこいつ約束は…？

カツツユ：あ～あ、片付けてやるとも。おまえや忍者隊ともじもきれいやっぱりとな。

社長：だましたな！カツツユ！

カツツユ：今頃気づいても遅いわ。サラバだ、諸君。

ジンペイ：くつそー、いつもながら汚いぞ！カツツユ！

社長：（土下座して）許してくれ、ガッチャマン。私が馬鹿だつた。内緒でジャングルの木を伐採して湖の底に沈めていたのだが、ギャラクターのやつらに見つかってしまい、黙つていてやるから科学忍者隊をここへ連れてくるよつに言われたのだ。す、すまなかつたー。

（土下座をしている社長をモニターで見ているカツシ）

ギャラ兵：カツシも、ミシェルをつれてまいりました。

（ミシェルが入つてくる）

カツシ：あ～、ミシェル君。よく決心したな。ギャラクターに入ったお祝いにわざわざ仇を討たせてやろつ。モニターを見たまえ。

ミシェル：うつ、テゼー。一緒にいるのは科学忍者隊？！

カツシ：どうだね？ ミシェルくん。このスイッチを押せば天井が落ちてきて社長はペシャンコだ。あつという間に仇がとれるぞ。フアハハハハ。

（ミシェルはボタンに手をかけるが、その手は震えていてなかなかスイッチが押せない）

（同じく肩を震わせている社長）

ケン：社長さん、よく言つてくださいました。

社長：へ？（顔を上げる）

ケン：実は、事前に湖を調査したのです。なぜ社長さんがうそをついてまでわれわれをここに呼び出すのか知りたくてワナにはまつた

フリをして来たのです。

社長：（涙をこぼしながら）わ、ワシは怖かったんじや。同じよう
にギャラクターの秘密を知った現場監督のジョナサンが、こっそり
国際科学技術庁に連絡をしようとして、ギャラクターに殺されたのを
見てしまって・・・！

ケン：そうだったんですか。社長さ、ギャラクターの基地の入り
口を存知ですね。

社長：み、湖の下です。地下通路でつながっています。

ケン：そりとわかれば・・・ジュン、ジンペイーあのドアを爆破する
んだ。

ジュン：まかせといて。

ジンペイ：それ一つ。

（三一三一と爆薬を仕掛けたクラッカーを同時に投げてドアを破壊
する）

（ココウがマントで社長を守る）

ケン：よしーいぐぞ。

カツツ・（モニターを見ながら）ばかもの。もたもたしているか
ら逃げられてではないか？！

うーん。こうなれば基地ごと爆破してやるー。
お前は私と来るんだ。

(ミシルを引っ張つて隠し扉の向いへ逃れる)

(入れ替わりにガッシュマンたちが基地内にやつてくれる)

ケン：ここだな。

(ギャラ兵たちの一斉銃撃)

(それをかわして4人それぞれが、つせつせとギャラ兵をやつつか
る)

ケン：カツツ、どこにいる？ 出て来い！
くそつ、カツツめ。逃げたな。

(ジュンが時限装置に気がつく)

ジュン：ケン！ たいへんよ。もうすぐこの基地は爆発するわ！

ケン：なんだつて？ しまった！ すぐに脱出するんだ。

(社長とともに基地から脱出したガッシュマンたちだが、地下通路
が入り組んでいて途中で迷つてしまつ。)

ケン：く、くそつ。ビッちが出口なんだ？

ジンペイ：おねえちゃん、もうだめだ。

ジュン：ジンペイ、最後まであきらめやだめよ。

ジョー：おー、ケンー！ ひつだ。

ケン・ジョー、ビットリーリー。

ジョー・そんなことはどうでもいい。早くソロから出る方が先だぜ。

(見張り小屋の出入り口にやつとたどり着き地上へ出る忍者隊。)(その時、湖が大きく盛り上がって枯れ木を吹き飛ばしながらダイネッコが出現する。)

(あつとこゝに忍者隊に追いついたダイネッコが目前に迫る。)

リュウ・ひわ～つ。

ジョー・レーリー。

ジュン・早く逃げないと踏みつぶされてしまつわ。

ジンペイ・おねえちや～ん！

(ダイネッコの操縦席にはカツシューが。)

カツシュー・ミシェルくん、よく見たまえ。君の婚約者の仇がもうすぐ討てるだ。

(ミシェルは操縦席の後ろにしがみついて泣いている)

ミシェル・（心中で）ジョナサンを殺したのは社長ではなくてギヤラクターだつたんだ。何とかしてガッチャマンたちを助けなければ…。

ケン・リュウ・「ラジオフニックスはどうしてあるんだ？！」

リュウ・あの隣の高いヤシの木の下だわ。

ケン・よしー、オレがやつを吊りつけておくからその間に乗り込むんだ。
いいな、ジユン。社長さんを頼んだぞ。

ジユン・オッケー。

ケン・バードランー（ダイネックにブームランを投げるがはね返されてダイネックが健に迫る）

（間一髪で「ラジオフニックスがダイネックとケンの間に割って入る。）

（素早く「ラジオフニックスに乗り移るケン）

（と、同時に見張り小屋や湖が大爆発）

ケン：（「ラジオフニックスのラックピットに戻つて）よし、ジヨー、バードミサイルだ！

ジヨー・ま、待ってくれ。ケン。

ケン・なに？！

ジンペイ・あれ、今日はなんかいつもと逆だぞ。

ジヨー・あの中にはミシユルが・・。

ケン・誰だつてえ？？

（その時大きな爆発音とともにダイネツ「ゴガ自爆。カッシュは角の部分から脱出用の小型ロケットで逃げる）

ジヨー・〃、ミシユル～～～！～～（ゴシックスから出ていく）

ケン・ジヨー・ビ〜へいぐんだ？まだあぶないぞ。

ジュン・ジヨー、やめて。

ジヨー・ミシユル、死ぬな～！

（ダイネツ「最後の大爆発。ダイネツ」から放り出されるミシユル）

ジヨー・しまつた

ジンペイ・ジヨーのアーチ～！

（ミシユルが倒れているところに駆けつけるジヨー。素顔に戻つている）

ジヨー・ミシユル、ミシユル。しつかりするんだ。（ミシユルを抱き起します。）

ミシユル：（眼をあけて）ジヨー・・・。私思い知ったわ。復讐がどんな結果を招くのか。・・・また誰かが死ぬだけよ。

ジヨー・ミシール、死んじやいけない。

ミシール・でも、ジヨーの・・仇きはとひ・・たわ。鉄獣の・・自爆スイッチを押して・・やつたの。カッショは・・吹つ飛んだ・・でしょう?

ジヨー・ああ・・。

ミシール・よかつた。(うつすら笑う) これで・・復讐は・・終わつたわ。ジヨー・・だからあなたは・・死んではだめよ。ジヨー・・。ひつひ・・。(首ががくりとなる)

ジヨー・ミシール・・ミシールーーッ!!(強く抱きしめると涙する)

(夕焼け空の中)「ロッドフニックスがジヨーに近づいてくる。頬と頬を合わせるようにしてミシールを抱いたままのジヨー。ロッドフニックスは飛び去っていく。」

(夕田とロッドフニックスのラストシーン)

ナレーション・ベルクカッシュもギャラクターもまだ滅びてはいない。
だがジヨーはそのことをミシールには言えなかつた。
それが本當になるその日まで、がんばれコンドルのジヨー。戦えガツチャマン!

(後書き)

読んでいただきありがとうございました。

ガッチャマンのファンフィクは他にもありますのでよかつたら読んでください。

BLのもも一点ですがムーンライトの方にあります。

興味がある方はどうぞ。作家名は同じく「あわいこ」です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5605h/>

【脚本風】ミッドナイトブルーに包まれて

2010年10月15日22時28分発行